
WAR

ghost

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

WAR

【Nコード】

N2416N

【作者名】

ghost

【あらすじ】

ロシアの超国家主義派が行っている人体実験を偵察に来たシールズ隊員の二人が見たものは？

偵察任務

第一話、偵察任務

2010年、7月16日、山中にあるロシア軍基地

二人のシールズ隊員が潜入している、理由は超国家主義派による人体実験が行われているという情報がCIAから入ってきたために、偵察任務に来たのだ。

黄緑と茶色の戦闘服を着た二人は静かに、そして素早く動く

何人もの超国家主義派の兵士のパトロールを潜り抜け、シールズ隊員は基地内部へと潜入した・・・

マイク「こちらブラボーツー、基地内部へ潜入した、これより人体実験が行われていると思われる地下に向かう」

司令室「了解、写真を撮影して転送せよ」

ジョーンズ「まったくロシアの奴らは狂ってるよ！！人体実験だあ？」

マイク「まあそう言うな、その人体実験とやらは人体を悪魔みたい改造するらしい・・・、それさえ公にさせば官軍も手を貸してくれるさ」

ジョーンズ「そうだな、志願したのは俺だし、さっさと仕事済ましてしど向かうか、おっと12時！敵のパトロールだ！」

ジョーンズは壁に、マイクは階段の影に素早く隠れる。

地下は三階あり、階段のある部屋は広く真ん中はホールになってお

り、三階が見える、緑や青の透明の人一人入れるようなカプセルが数個見える……

ジョーンズ「あれがそうなのか？」

マイク「あれで間違いないだろう……写真を撮る」

写真を十枚ほど撮ると撤収するために、出口を目指す

脱出口に近い場所には、特別にぼろくロシア語で「廃棄室」書いてある。二人は気に留めなかったが、敵のパトロールが来たため廃棄室へと入った

？「うう……」

人の声が聞こえ、二人はライフルを即座に向ける！

二人は見た、人体実験に失敗した成れの果てを。

マイク「なんだ！？これは？！」

三体横たわっており、首には枷があり、手前の一体は胸から上しかなく肌は黒くやせ細っている、驚くことはまだ息をしているということだ！二体目は両手両足が無く、目が潰れている

最後の一体は、ぼそぼそと二人に喋り掛けている

ジョーンズ「？」

？「逃げる、ここは地獄だ……ここは地獄だ……ここは地獄だ、奴らは悪魔だ、そして私は失敗作だ……」

マイク「なにがあつたんだ？」

ジョーンズ「聞いているひまがあるか！！撤収しないとまずいぞ！！」
？「殺してくれ……私を殺せ、殺せ……殺せ」

その声を聞いた超国家主義派の兵士が声を上げた

「（敵だああつああ！！！！！！！！！！）」

マイク「まずい……！」

ジョーンズ「いくぞ……！」

マイク「こちらブラボーツー……！敵に見つかった……！！SOAR
の要請を求む……！！！」

司令室「了解、10分後にはLZに来い……！」

敵たちが撃ってくる、撃ち返しながらも、二人は走る

出口を出ると、緑色の景色が広がる、それと同時に、不思議なこと
だが敵の攻撃が止む

マイク「？」

ジョーンズ「おかしい……！んだあ……？！撃たなくなってきたぞ……！」
マイク「いい機会だ……！！……！逃げるぞ……！！！」

その時、後ろからグレネードのピンを抜く音がする、二人は振り返
ると、黒いタイトのような姿の女がグレネードを投げてきた。

さよなら、ジョーンズ

マイク「グレネード！！！！」

二人は、グレネードの爆発と破片から逃れるため、横にジャンプする
そしてグレネードは爆発した。

ジョーンズ「くっそ！！殲滅する！！」

ジョーンズはM4で女を射撃する。
弾丸は女の額にあたった……

マイク「なんて女だ、いきなりグレネード投げてきやがって……」
ジョーンズ「まったくだ、いい女なのに撃ち殺しちゃったよ、……
・さあLZに向かうか」

女「勝手に殺さないでよ？」

二人は驚いて振り返る！そこには倒したはずの女が立っていた。

ジョーンズ「なに！？いま、俺頭ぶち抜いたよな！！？」

マイク「もう一度だ！！」

女はグレネードのピンを抜いてマイクたちへと投げる。
足元へと転がってきたグレネードを投げ返すマイク

マイク「くたばれ！！！」

見事にグレネードは女に命中し、激しく爆発した。

マイク「やったか?!」

グレネードによる砂煙が薄くなっていく、そこには女が平然と立っていた

女「痛いじゃない、でも・・・その程度かしら?」

二人は、悟った、逃げなきゃ殺される、倒せない!!この女には勝てない!!逃げる!今すぐ逃げる!!・・・と、二人は撃ちながらもLZに向かう、逃げる二人を、グレネードを投げながら追う女。LZまであと70M、しかしジョーンズの足にグレネードの破片が刺さる。

ジョーンズ「あぐっ!!!!!!!!!!」

マイク「ジョー!!!!!!隊員一名負傷!!!!!!繰り返す!!!!!!隊員一名負傷!!!!PJはまだ来ないのか!!!!!!??」

PJ隊員「あと二分だ!!!!待っててくれ!!!!」

ジョーンズは倒れた、マイクはジョーンズの元へと向かおうとするが・・・

女「お前は捕虜だ、逃がさないわ」

女は、ジョーンズの肩に長いナイフをさし、ジョーンズを地面に縫い付ける。

マイク「糞アマア!!!!!!」

女「次はお前だ」

女は、マイクの方へと走ろうとした、だがその時ジョーンズが、女の足をサバイバルナイフで刺す。

女「まだ動けるのか！！」

ジョーンズ「マ、マイク・・・！」

マイク「ジョー！」

ジョーンズ「に、逃げるんだ！！俺を置いて逃げるんだ！！」

そう言うと、ジョーンズはもう一本「のナイフを女の膝に刺す。

女「ッ！！！！逃がさないわよ！！」

女はグレネードのピンを抜こうとする、しかしジョーンズがその手を掴む。

女「離しなさい！！離せ！！！」

ジョーンズ「マイク！！俺にかまわず行け！！！！行け！！行くんだああ！！！！！！！！！！！！！！！！」

マイク「ジョー！！お前を見捨てられるか！！！」

女はナイフを抜く、そしてピンを抜こうとする、マイクがジョーンズの元へ走ろうとした、しかしジョーンズがハンドガンを抜きマイクの足元を撃った。

ジョーンズ「かみさんが待ってるんだろう？」

女「お前は殺す！！！！！！」

マイク「ジョー！！」

ジョーンズ「大佐によろしくな・・・」

マイク「ジョー！！なにを言ってるんだ！！！！！！」

ジョーンズ「俺はもう駄目だ、お前は助かる、なあに、こんなにいい女この腕に抱いて味方助けるために死ねるなら本望さ！！！！」

ジョーンズは女を抱き、グレネードのピンを抜く。

女「やめなさい！ーやめろおお！ー！もう復活できないのよお！
！ー！」

ジョーンズ「ウオオオオオオオオ！ー！ー！ー！ー！」

マイクの肩にグレネードの破片が刺さる、マイクの15M先でグレネードが爆発したのだ。

マイク「ジョー？ジョオオオオオオオ！ー！ー！ー！ー！ー！ー！
！ー！ー！ー！ー！ー！ー！ー！ー！ー！ー！ー！ー！ー！ー！ー！
！」

遅すぎたPJ隊員

PJ隊員「シールズ隊員を発見！敵影なし」

グレネードによる砂煙で、ジョーンズと女は見えない、マイクはただ叫んでいる。

PJ隊員「怪我は無いのか！？もう一人はどうした？！」

マイク「馬鹿野郎！！遅すぎんだよ！！！！ジョーは、ジョーは自滅したんだ」

PJ隊員「！？、自滅！！？とりあえず撤収を・・・」

その時！超国家主義派の兵士たちが突如砂煙の中から出現する！！

PJ隊員たちは、マイクをドラッグハンドルで運びながら、敵兵に応戦する。

マイク「ジョー！！ジョー！！！！！！！！」

大勢の超国家主義派の兵士たちが追ってくる中、マイクとPJ隊員たちはへりに乗り込む、そしてへりは飛び立つ。

飛ぶへりをRPGで落とそうとする超国家主義派、飛んできた口ケットを紙一重で避ける。

PJ隊員「止血剤！！」

PJ隊員「その前にベストはがせ！！！」

PJ隊員「グレネードの破片を摘出する・・・」

モルヒネを打ち、ペンチのような器具を、傷口に入れ、医師並みの

技術で破片を取り、血が噴出さないように止血剤を塗り、その上からガーゼと包帯で治療する。

最悪の任務となった戦場から戻ったマイクはすぐさま基地の医務室で治療を受ける。

そして任務の司令官に任務内容を、報告した。

そして医務室のベッドの上で時が過ぎ、夜になった。マイクは涙を流した、ジョーンズとの思い出を思い出したのだ、シールズの選抜訓練で共に苦しい思いをしたこと、休暇中にBARで見つけた女性を二人で口説いた事、その女性と結婚が決まって、ジョーンズと本気の殴り合いをしたこと・・・、今までの思い出が頭によぎって、マイクは涙を流して壁を殴った。

アフガニスタンでの同盟

シールズの偵察任務の次の日、特殊部隊グループがジョーンズの亡骸を収集に向かったが、遺体は見つからなかったという・・・
装備品の破片などもすべて無くなっていた。

それから三日後・・・

アフガニスタン南部カンダハル

超国家主義派の幹部と、反米反政府テロリストであるタリバンの幹部が会談を行っている、戦車、装甲車、戦闘ヘリ、兵士の援軍、武器、そして人体を悪魔のように強くする薬物の援助を条件に、タリバンと超国家主義派の同盟組織ができた。
よってカンダハルには超国家主義派の研究施設、野営基地が設けられた。

この情報により、SOAR、北部同盟、米統合特殊作戦陸軍・第一特殊部隊グループ、米統合特殊作戦海軍シールズ、英国特殊部隊・第22 SAS連隊、アフガニスタン政府軍が、合同攻撃作戦が決定した。

任務内容は、タリバン戦力の収縮、情報収集、研究施設や野営基地の破壊工作であり、特殊部隊グループ、北部同盟、アフガニスタン政府軍が強襲攻撃をし、シールズチーム、SASが情報収集、破壊工作を行うこととなった。

マイクは、傷が癒えないままだが、この任務に志願した、ジョーン

ズの敵討ちと自分がシール隊員であるという証明のためである。

一ヶ月後、アフガニスタンのカンダハル飛行場の米軍基地にて、北部同盟、特殊部隊グループ、シールズチーム、SAS、が集結し、任務内容などが司令官から通告された、早速、各部隊は準備に取り掛かる、最新型のUAV爆撃機用コンピューター、GPS、弾丸、銃の整備、レーション、中には戦闘服に血液型のパッチを貼るものまでいる。

マイクはM4A1カービン、MP5、P226の調整を行う、特殊閃光音響弾、グレネードなどのピンを抜きレバーをテープで固定する、マイクの心はすでに臨戦体制である。

その場で異様な雰囲気を感じ出していたのはマイクだけだった、その場のみんなが気づきそうで気づかない、そんな異様さを放っていた……

それから一時間後、司令官により任務開始の合図が発令され、SAS、シールズ隊員たちはSOARの操るヘリコプターに乗り込む、特殊部隊グループ、はハンビーや戦闘車両に乗り込む、北部同盟、アフガニスタン政府軍は二時間前に行動し、攻撃準備を整えている。

そして米英の特殊部隊は出撃する。

生きていた同胞

カンダハルにある超国家主義派と反米反政府テロリスト「タリバン」の同盟軍基地に、北部同盟、アフガニスタン政府軍が奇襲攻撃をかける。

火に灯油を注いだのようかに、その場は一気に戦場となった、そんな中特殊部隊グループがハンビイーなどの戦闘車両で介入する、タリバンはRPGを車列に向け発射する、弾頭は車両上をそれ崖にぶつかった、交戦規則にしたがって特殊部隊グループの隊員たちは重機関銃を乱射しながら強襲攻撃をする、その場はさらに激しくなった。

マイク「アルファ2-1はSAS隊員と共に、東方向のバンカーから突入する！アルファ2-2はその下の機関銃陣地から突入してくれ」

ゲイリー「了解、聞こえたか？アルファ2-2は機関銃陣地を制圧し、弾薬庫にC4を仕掛ける！それから敵へり、戦車を破壊、その後はアルファ2-1と合流する！」

隊員「了解！！」

ロイ「我々SASは、シールズアルファ2-1と共に基地内の敵と交戦、研究室、敵の情報機器室の情報を得たあと特殊工作を行う！いいな！！勇気あるものが勝利するだ！！！」

SAS隊員「了解！！みんなを引き締めていくぞ！！大胆にだ！！」

しかしロシア製の戦闘ヘリが輸送ヘリを攻撃する、それをみた特殊部隊グループ隊員がジャベリンロケット砲で間一髪、敵の戦闘ヘリを落とす。

マイク「こちらアルファ2-1からブラボー6へ、ヘリ撃退を感謝する」

ジェームズ「こちらブラボー6、地上支援は任せろ、どうぞ」

マイク「了解、迅速に制圧する」

輸送ヘリコプターは、バンカーの近くに降下する、ヘリコプターのタイヤが地面に着くと同時に、米英の「特殊部隊員はすぐさまヘリから降りる、そしてバンカーへと入る。

エリアス「1スタンバイ！」

ジェイソン「2スタンバイ！」

マイク「ブリーチ爆薬セット完了、2、1。」

マイクがブリーチ爆薬をリモート操作しドアを吹きとばす。

マイク「突入！突入！！」

突入すると、室内に居たテロリスト四人を射殺し、次の扉に突入体制をとる。

マイク「こちらアルファ2-1及びSAS、基地建物内に潜入した。」

ゲイリー「了解！アルファ2-2も突入した、こちらは食堂にて交戦中！！！」

マイク「了解、こちらも情報収集、特殊工作にかかる」

司令室「本部から、アルファ部隊へ、西山中から敵の増援を確認した、早めに終わらせることをお勧めする。」

マイク「了解、アルファ2-1アウト。」

次の扉を吹き飛ばし、敵を制圧していく、そしてアルファチームとSASは研究室の扉の前に着く、突入体制をとり扉をブリーチ爆破し、隊員たちは突入する。中に居る研究者たちは武器を手取るが、

ことごとく頭を撃ちぬかれる。

ロイ「クリア！！これから爆破工作を行う。」

SAS隊員たちは、C4爆薬をタンクなどに仕掛ける、それと同時にシールズチーム達は、コンピューターに情報機器を接続し情報を取り込む。

マイクは情報を取り込んでいる間、書類などに目を通す、そこで見たことのある風景が写っている写真を見る……。そう、ロシア山中にある超国家主義派の研究基地である、青色や緑色のタンク、人体実験をするための機械器具、そして手術台……。手術台には一人の男性が写っている、マイクは驚愕する！！その男はよく知っている人間だったのだ！一緒にシールズ選抜訓練を受け、本気の殴り合いをした、そうケイプス・ジョーンズだったのだ！

マイクは驚いた、驚きを隠せなかった、しかしマイクは確信した、ジョーンズは生きてる！と……。

しかしそこにタリバンの兵士たちが攻め込んでくる、マイクたちはすぐさま応戦する、マイクがM14 EBRの弾倉交換しようとした時爆発音が聞こえ、建物が揺れ、天井からは砂煙がたち小石などがばらつく。

ジェームズ「こちらブラボー6！！！！敵戦闘ヘリの空襲！！！！戦車も多数！！航空支援が必要だ！！アルファチーム！！迅速な任務遂行求む！！」

ゲイリー「こちらアルファ2-2、破壊工作完了」

マイク「こちらアルファ2-1！敵排除！及び破壊工作完了！今から攻撃支援に向かう！！」

司令室「了解、UAV攻撃機とA10地上攻撃機を派遣する。」

ジェームズ「了解！！あと何分後に到着になる！！」

司令室「ああ・・・、四分後に到着する。それまで持ちこたえてくれ」

ジェームズ「了解！！ブラボー6アウト！！」

アルファ2-1、アルファ2-2は建物を脱出し、C4を遠隔操作で爆発させる、すると建物入り口から勢いよく爆風が吹き荒れる。

北部同盟、アフガニスタン政府軍、ブラボーチームと合流すると共に、無人攻撃機による爆撃が始まった、ミサイルを敵軍に撃ち込み敵を吹き飛ばしていく、しかし敵へりはなおも攻撃してくる！

ジャベリンミサイルの弾もなくなってしまう絶望かと思われたその時、上空をA10地上攻撃機が30mmガトリングガンを撃ち、不気味なブオオオオという発射音を発しながら飛んでいく、そして敵へりを墜とす。

航空機パイロット「こちらA10、航空支援をするので撤収しろ」
マイク「了解！全部隊！！LZに向かうぞ、GO！GO！GO！」

特殊部隊グループは、アフガニスタン政府軍、北部同盟と共に、各車両に乗り込む、シールズチーム、SASはLZに着き、SOARのへりに乗り込み撤収する、こうしてアフガニスタンでの戦闘は終わった。

B A Rでの密談

マイクは基地近くのB A Rで一人の男をまっていた

待ち合わせ時間、夜8時に密談する予定の男を……

？「待たせたな」

マイク「仕事だったのか？ヘンノ」

ヘンノ「まあな……それで？今度はどうした？」

マイク「実は二週間後、ロシアのシホテアリニ山脈にて調査任務があるんだが……」

ヘンノ「おいおい、そこはジョーンズが死んだ超国家主義派の基地がある場所じゃないのか？なぜまた？」

マイク「どうやら超国家主義派の連中は、核兵器製造工場を作り始めてるらしい……それと……」

ヘンノ「それと？」

マイク「ジョーは生きてる」

ヘンノ「おいおい冗談はよくないぜ！確かに死んだはずじゃ……」

マイク「いや、ジョーは確かに生きてる、そして奴らに人体実験を行われてるはずだ」

ヘンノ「……」

マイク「ヘンノに頼みがある」

ヘンノ「なんだ？まさか……？」

マイク「ああ、ヘンノ、あんたら傭兵の力を借りたい」

ヘンノ「……俺はあのイラク戦争のときS A Sとして戦っていた、運悪く敵兵に捕まり、捕虜になった……耳たぶは裂かれ、指を切断され、糞を食わされ、殴る蹴るの暴行、水攻め、最終的には仲間の持っていた拳銃を額に突きつけられた、もう駄目かと

思ったその時……あんたに救われたんだ、いわば命の恩人。なにが必要だ？」

マイク「有難う、感謝するよ」

マイクはヘンノに必要なものを要求した……

M134Dガトリングガン、M14EBR、AK-47、グレネード十個、M79グレネードランチャー、40×46mmグレネード弾、7.62×51mm NATO弾薬500発、これとは別にM134D用に7.62mm弾薬を9000発、45ACP弾薬を120発、さらには戦闘ヘリコプタによる爆撃と機銃掃射支援、AGMミサイル、AGMミサイル誘導機器、ハマーH3などを要求した。

ヘンノ「AKの弾は必要なのか？」

マイク「AKの弾はマガジン一個でいい、必要な兵員はヘリコプタのクルーだけで十分だ」

ヘンノ「お前は死ぬ気なのか？」

マイク「ジョーは俺を救うために一度死んだ、俺のために味方は死なせたたくない」

ヘンノ「マイク……、」

ヘンノは少し考えた、いや考えさせられた、マイクは疲れている、だがこれほどまでに仲間を死なせたくないという意志は、普通の人間にあるだろうか？と……

ヘンノ「死ぬな」

マイク「!？」

ヘンノ「死ぬんじゃないぞ、俺にとってマイクは仲間、だから……最善を尽くす!!、だから……死ぬんじゃないぞ!マイク!

！」

マイク「ヘンノ・・・ふっ、有難うよ」

その後、このイギリス人とアメリカ人は酒を呑み、楽しそうな雰囲気の中、世間話をしていった。

マイクの最後の激戦

ロシア、シホテアリニ山脈、超国家主義派軍基地、午後1時32分
その時、米軍特殊部隊の野営基地にいるはずであるマイクの姿はなかった。

ヘンノ「マイク準備はOKか？こちらはコブラ離陸準備OK！」
マイク「こちらマイク、ハンビーOK！いつでもOKだ。」
基地から200Mのところにマイクは潜んでいる、もちろん敵兵士たちは彼に気づいていない。

これから戦闘ヘリのコブラが襲ってくることも・・・

ヘンノ「こちらヘンノ、攻撃ポイントまで1000m」
マイク「了解！攻撃のタイミングにあわせて出発する。」

そんなとき超国家主義派の兵士たちは楽しそうにサッカーをしている、コーヒーを飲む者やタバコを吸いながら世間話をしている者など・・・

そんな楽しい雰囲気の中、一人の兵士がヘンノのヘリコプターに気づく
敵兵士「んだ？あれは！？」

ヘンノ「攻撃目標を確認！これからパイプローを開始する！！！」

そう言うところをサッカーをしている兵士たちのところへミサイルを撃ち込むヘンノ、着弾と共に敵兵士が吹き飛ば
混乱の渦と化した戦場で敵兵士があわてながらもヘンノのヘリコプターを落とそうと反撃しようとする、しかしヘンノは容赦なく機銃掃射する。

タタタタタタタッ！！！！という射撃音を発すると地上の敵兵士たちは瞬く間に吹き飛んでいく、体が真つ二つになる者、腕や足などが宙に舞うと同時に血飛沫！着弾による砂煙！
ヘンノは機銃陣地を破壊し尽くした。

ヘンノ「こちらヘンノ！あらかたの兵士、機関銃陣地、及び戦車、戦闘ヘリ破壊っ！！。弾薬補給のため一時アルファポイントに戻る！！マイク！頑張れよっ！！」
マイク「任せろ！！攻撃ポイント到着！！」

マイクはハンビーの屋根についている銃座につくとM134Dガトリングガンを操る。

奇襲が終わったと思った敵兵士が基地から出てくる、その兵士をマイクは機銃掃射する、バアアアアア！！という一定を保つ射撃音が響く、秒間50発の連射が超国家主義派の兵士たちを容赦なく襲う！！

次々と出てくる相手を瞬殺するマイク。

三千発を撃ち尽くし、弾薬交換を開始する、その隙を突こうとした兵士がRPGを構えるがマイクが超人的感で頭を撃ちぬく、敵兵士が接近を試みようとするが、M134Dの弾薬交換が完了し、逃げるまもなく的にされる。

ある程度の敵を掃討・・・、その場が少し静まる、マイクはAK-47を手に取るとハンビーから降りた。

背中にM14 EBRとM79グレネードランチャーを背負い、ヘルメットを被る。

マイク「まってる！ジョー！！」

ライフルを構え基地に潜入する。

マイクは速やかに、そして静かにクリアリングしていく、五、六人の足音が聞こえてくるとマイクは素早く角に隠れる・・・六人の敵兵士が通り過ぎると、AK-47で射撃する、敵を的確に無力化する、弾が切れそうになると、倒した敵から奪い、残り弾数1発のところまで弾倉交換をする、的確にミスのないリロード、マイクの体内にはアドレナリンが全開になっていた。

マイク「うおおおおおっ！！！」

ライフルを正確に撃ち、残り3発になると弾薬を装填する。

敵を倒しに倒し、マイクは基地の地下三階に着く、素早くクリアリングするマイク、敵が居ないことを確認すると爆薬を仕掛ける、爆薬を仕掛けていると、金属製の扉が開く。

？「やあ！！そんなもの仕掛けられると困るなあ！」

白い白衣を纏う一人の男、髪の毛が長くポルトガルのような顔立ちの科学者がマイクの前にたっている

マイク「手を上げる！」

？「そうかわかするな、私はただの科学者だ、兵士じゃない。ただこの司令官ではあるがね」

マイク「何だお前は、司令官?!」

?「ああそうだと、私の研究が高く買われてね・・・、兵士たちを改造をしてこの世に送り出していくのは実にいい気分だ」

マイク「黙れ!!勝手にグダグダ言いやがって!!この精神病患者が!貴様が改造を!」

?「それがどうだというんだね!!?君だって人を虫けらのようにひねり殺してきただろうに!!まともな人間なんて居ない、完璧な人間なんて居ない!!私はそれを完璧にしている!!悪いことは何にもしていないのだよ!ははははっ!!あのシール隊員もわが手中に!そして世界を支配してやるぞ!!崇拜するスターリンの思想の復活!!このフォールスキーの力にひれ伏す!米国も!英国も!貴様ら米国の犬であるジャップも!!フランス!中国!その他諸々!!ははははははははっ!!!!!!」

マイクがナイフをフォールスキーの足に刺すっ!

フォールスキー「ギャオオオオオオッ!!!!」

マイク「聞け」

フォールスキー「ううっ!ひっ!」

マイク「貴様は最後に殺す」

フォールスキー「?!」

マイク「それまで足の傷で苦しんでろ、俺はこの基地を一人残らず制圧する、おれが戻ってくるそのときがきたら、俺はお前を喜んで殺してやる!!」

マイクはさらにナイフを生殖器に刺す

フォールスキー「うぎゃおっ!があ・・・」

マイクはフォールスキーを背にすると、次の研究室へと向かう。

Ak-47を投げ捨て、M14EBRに持ち替える、スライド式の

残るはジョーンズの救出。

敵を排除しながら、研究施設を制圧していくマイク、そしてついに最後の研究ホールにたどり着く。

マイク「（ジョーはどこだ？どこに・・・）」

研究ホールをクリアリングしていくマイク、その姿を見て影から男が発声する。

？「そこにいるのはマイクか・・・」

マイク「ジョーか？！ジョーっ！ジョーどこにいるんだ！？」

ジョー「ここだよ、ここ、だが残念ながら、俺はお前の知っている俺じゃない」

そこに居たのは、マイクの捜し求めているジョーンズであつた。

マイク「なに言ってるんだ！さあジョー！基地へ帰ろう！」

ジョー「俺は基地などには行かん、ここが俺の基地、俺の家、俺の聖域」

マイク「どうしたんだ！ジョーっ！！人体実験で頭がオシャカになつちまつたのかぁ！！！！！！」

ジョー「俺は正気、正気以外の何者でもない、この狂つた世の中、完璧ではない人間の世の中で、俺だけが唯一完璧！100パーセント欠品のない人間！」

マイク「アアアアアアアアッ！！テメーまで狂つちまつたかア！！！！ジョオオオオオオオオッ！！！！」

マイクが涙を流しながらEBRを構える！本気の殺意！一撃必殺の頭目掛け2発撃つ！！

発砲音がホールに響く！

弾丸は空を飛んでいった。

ジョーンズが目にも止まらぬ速度で動いたのだ！、マイクの持っていたライフルが手刀で真っ二つにされる！

マイクは動じるが、すぐにハンドガンを抜く！

マイク「ジョーっ！！」

しかしマイクがトリガーを引く前に怪物と化したジョーンズがボディブローをマイクに入れる、マイクはたったの一撃で吹っ飛ばされる。

マイク「グフっ！！」

ジョーンズ「残念だよ！シールズの中では絶対に実力でぬかせなかったのに、今では虫けら同然！虫けら！虫けら！ハッハッハッハッハー！！！！オラ！！」

ドカッ！ドカッ！！、マイクを滅多打ちにする音が響く、マイクは吐血する！！

ジョーンズ「雑魚！フハハハハハハハアー！！！！」

ジョーンズは配管パイプに手をかけると引きちぎった。

ジョーンズ「あばよ、虫けら」

マイクの腹部を貫通する直径3cmの金属製パイプ、マイクの意識が飛ぶ。

マイクの視界は真っ暗になる、真っ暗な世界、その中で見えてくるものがあつた。

それは走馬灯・・・マイクの記憶が過ぎる・・・

このまま死ぬのか？

いや・・・

まだだっ！！

マイクを見下ろすジョーンズ……
背をむけ去ろうとする。

ピクッ！

ジョーンズ「！！」

マイク「お前は……」

ジョーンズ「？」

マイク「俺が殺す！！」

パイプを腹部から抜こうとする！だが抜けない！流れ出る血液が潤滑油のように手のひらを滑らせる！！

ジョーンズ「ふっ……ふっふふっ……ふっはっはっは
っはっははぁ！！殺すだと！笑わせるな！無力な人間！！貴様はパ
イプも抜けずに死ぬ！！その人間としての無力さに後悔しながら悶
え死ぬがいい！！」
マイク「ぐっ！！」

再びマイクの視界が暗くなり始める……だがその時、なぜだ
かマイクは意識をはつきりさせる

マイク「やっぱり……おれは死なん」

おびただしいほどの血液を地面に撒き散らしながらマイクは歩き始める。

ジョーンズ「血迷ったかマイク、死に自分から向かっていくとは対したものだ！！いま楽にしてやる！」

ジョーンズがパイプをもう一本取り出し、マイクに突き刺す！

マイク「ウアアアアアアアッ！！！！！」

マイクの前進がとまる、それでもマイクは震える足を前に動かす、そして力を振り絞って走り出した！！

ガシャッ！！

マイクは研究室の机に向かって倒れる。

ジョーンズ「ふん！やっと死んだか、手ごわい虫けらだった」

マイク「誰が死んだって？」

ジョーンズ「！！！！」

マイク「これがなんだかわかるか？」

手に持っていたのは、2本の注射器

ジョーンズ「そ、それは人間の細胞を変化させる強化剤！！貴様
あ！！！！！！」

マイク「わざわざ教えてくれてありがとよ！！おれはこれが何なの
かなんてしらねえ！！」

ジョーンズ「させるか！！」

マイク「もう遅い」

すでにマイクは注射器を2本さしている！

マイク「うつ！うああああああああつ！！！！」

マイクの体中の筋肉組織がメキメキと音を立てる！骨格が太くなり、
ナイロンのベストは引きちぎれ、目は充血しきって真っ赤になった！

パキンっ！パキン！！

体に刺さっているパイプが折れて地面に落ちる！

歯がのび！顔が猛獣のようになる！

ジョーンズ「ひっ！」

体の変化が終わる。

マイク「ガアアアアアアアアアアアアアアアア！！！！！！」

響き渡る獣の雄叫び、目にも留まらぬ速度でジョーンズの前に移動する！！

ジョーンズ「！！！！！」

マイク「ガルルルルル！！」

ビクつくジョーンズ、マイクからは人間のときの感情がまったく感じられない、殺意のみ！！
獲物を見るライオンの目つきで、ジョーンズを見下ろす。
ジョーンズの鼓動が早くなる！

ドシャっ！！！！

ジョーンズ「ぐあ！！！」

吹き飛ばされるジョーンズ！

ジョーンズ「こ、殺される！！殺されちゃうよお……、だ、だれか、誰かタスケテ」

ドカっ！グシャっ！

ジョーンズ「タスケテ……タスケテ……タ……ス」
マイク「ガアアアアアアアアアアアアアア！！！」

ゴシャっ！！

ジョーンズ「ふは……ふはははは……ははははははは！！！！」

悪魔と化したマイクが発狂したジョーンズの頭を掴む。

ジョーンズ「ふ……ふ……は……は……」

ボキッ！

二人の悪魔が戦っている空間が静まった、一人の悪魔が一方の悪魔の頭を掴んでいる。

悪魔の戦いは終わった……片方の悪魔の死によって。

その時、勝利した悪魔の体に変化が起きる！

メキメキと音を立てて体全体が小さくなる。

そして人間に戻った。

マイク「ぐっ！俺は元に戻ったのか？」

前方には亡骸となったジョーンズが横たわっていた。

マイク「俺は勝ったのか……でももうだめだ、もう俺の命も少な

い．．．．ぐっ」

視界が暗くなる、そんな時、ヘリコプターの音が聞こえてくる、ロ
ープが降りてくる、兵士たちがどんどん降りてくる

マイク「（はあ、どちらにしろ、殺され．．．）」

GHOST「マイク！！聞こえるか！！救助にきたぞ！！」

ヘリから降りてきたのは、味方の隊員だった。

GHOST「こちら1ST・SFG、C中隊、ブラボー6！！捕虜
になったシールズ隊員を発見！腹部に貫通の重症！」

《了解、応急処置プラス、基地の緊急医療センターに緊急帰還せよ》
GHOST「了解！！マイク！！しっかりしろ！！マアイクツ！！」

ヘリに寄せられたマイクは、うつろな目でGHOSTに話しかける

マイク「あ、あいつも乗せてくれ、あいつも元々仲間だったんだ．
．．」

指差す先にはジョーンズの亡骸があった。

GHOST「喋るな！！マイク！わかった！！乗せてやるから！喋るんじゃないぞ！！気をしっかりもつんだ！！」

隊員の言葉もむなしく、マイクの瞳に光はもう無かった。

マイクは死亡した。

GHOST「マイク？マイク！？」

心臓マッサージなどしたが、マイクは二度と息をすることはなかった。

悪魔となり戦ったマイク、亡骸として故郷に戻ったマイクの墓石には、こう彫られた。

味方を救うために、戦地で死す、戦友のために戦った英雄、マイクを忘れないでほしい。

エビローグ

中

「
執筆

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2416n/>

WAR

2011年10月7日19時13分発行